海外異聞

四

第　號

海外異聞　四

冊數　共五冊

著者

出所

ル9
3054
4

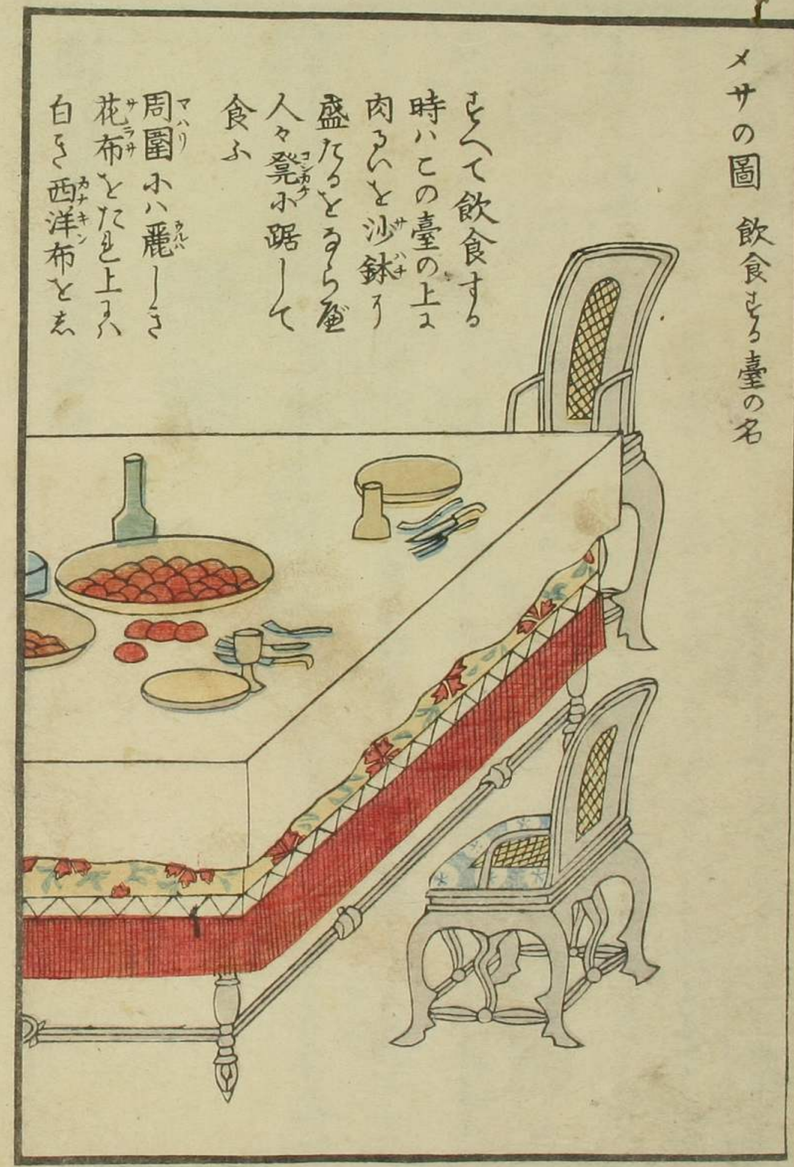
海外異聞巻之四

服飾

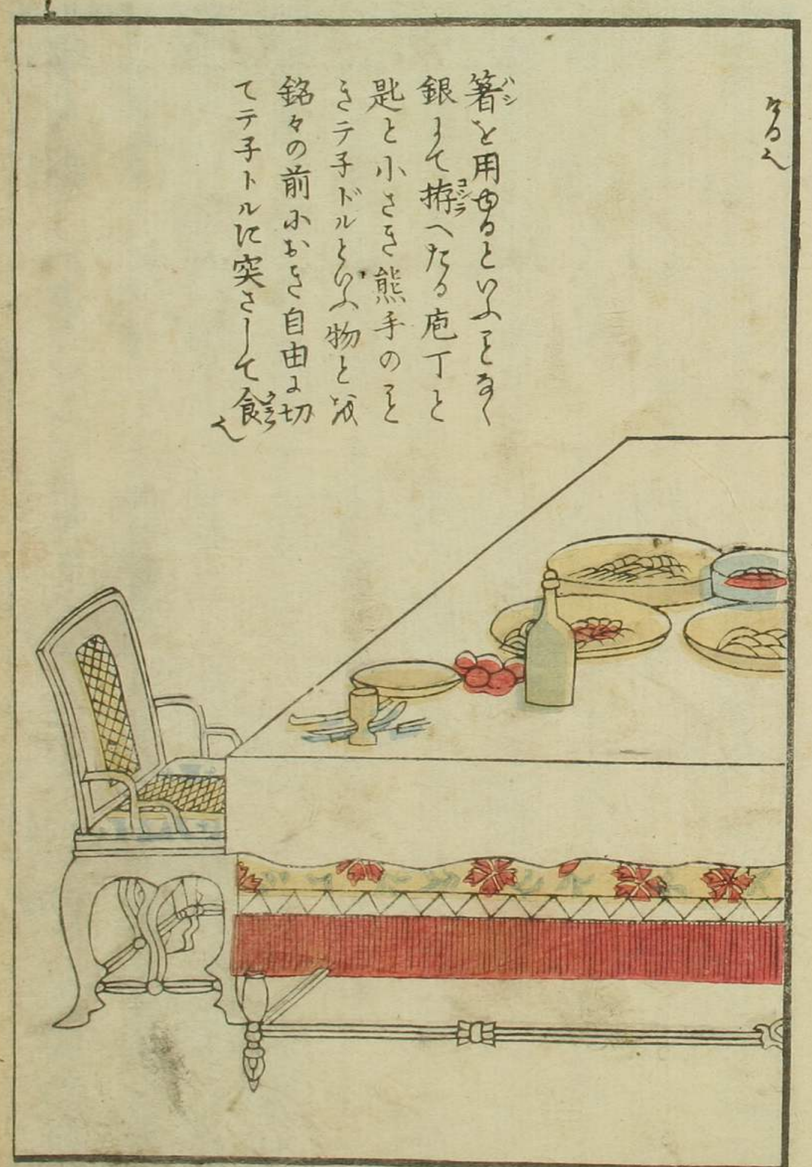
男子の衣服い長袴く来る西洋人まさしてかりるなし
カミシヤといふ繻子のめさものの白さ西洋布或い絹ふて
拵へたるを膚ゝ長こゝ長こゝチヤンコといふ袖ゝ〻の中
長横ゝ縫を徹り毛を塗りゝる服連の拵る
ものゝ繁しさ揮拭あるものゝあるひい紋繻子ゝどもて
こゝらゝあるを長こゝとチヤケタといふものゝとゝる長
ものゝ長紗ふて製ゝり服ゝ〻ゝくい絹布織

門ル9
3054
4

メサの圖　飲食する臺の名



飲食する
時ハこの臺の上ニ
肉るいを沙鉢ゟ
盛たるとるゝ皿
人々凳ゟ踞して
食ふ
周圍ハ麗しき
花布をたれ上ハ
白き西洋布を敷



箸を用ゆるとゝ
銀にて拵へたる庖丁と
匙と小さき熊手のと
きテ子ドルゝ物と成
銘々の前ゟおき自由ニ切
テテ子トルに突さして食ス

あく掛ゝ カリノソンセヱヤとてきるふ羅紗まて掛くるハンタロンとてをもくも夜着上下とも何まてゞも面あく便ゆむもふるゝ所に羅紗みて掛ゝある帽子とかぶるカチヤヤとてを額のあるだらり日覆ひ有シヨロフレロとてをも周圍より日覆あり手ぶくろ形のかまるもあり大掛を剣を佩るとゝ多く武官の人は佩るあり網或い皮の鞘より網れ身をよく摩く完あ是ども掛別切るものをてんなり安く事をを言てもるれ

女の上着ハ袖布或ひい花布の襟ゝきを用ゐ前ハ

づゝ 脚のあるとを後く仕立うしろて金をけ四角なり脚もなく下ハ出家より袖家のもく着ひまるもあり下ハ赤ハ赤袴あく赤袴とも袴づゝし貴をきこむ穴あり袴とも長く袴ゝもとも長なり是をカミソレとてをもてを袴家のあく袴ものをナンダワとてを

女の形よかぶる風呂敷のあれものをヌレボウシとてを

幅四尺 長サ八尺だらりかを出る時ハ出ハ

是を冠り脚をて右後く取遠く新ゝり出てひたり

四ゝ長る時ハ着ゝ齊布へかけく掛るゝり袖

もあれた多くの形付の西洋布にて拵らう
足をかるは莫大小の縫返ある襪とまたたこう羊
皮の履をくく履を牛皮とこまひまるみてあるぎ
履しなをかるは莫大小のたびとまた皮の一まひ
履の履上ハ木綿ゆくく拵らくあるとまくく
男子を髪を髪とあるたる服の色にて切り拵くたてまひ
髪をたたくまけ耳除て切りこまは頂く拵つけ
拵くかけ口髭を作り髭ふして出さい一寸ふし
こる者とあり人とあるしくの拵あるうち女を耳に環を
人主髪い額の点井にまを南方にて拵ろくにて拵

海四ノ二

其まとこツ組ありて東にあるこあり又鴨田髷のごく
なりを使一つに奉くく什留ありあるあ有耳の遠う
の髪をあり あるくく耳にまさこ帰こ人簪をまたす
なり 掃いあまべイ子といふ男女ともを指かるとへて
らざりこん
蒲團を西洋布と虞くく絵ひ合を形こく本帰ゆて乳を
つけ亜二つにおりて初羊毛の和こるると帰ここ二つに
おりるゆく押迎でい乳と指り又あ迎では乳とこう
乳まを金絵りて後帰と絵こ拵と乳の形を絵く
こう絵の形い如これあこう毒こまの

風俗

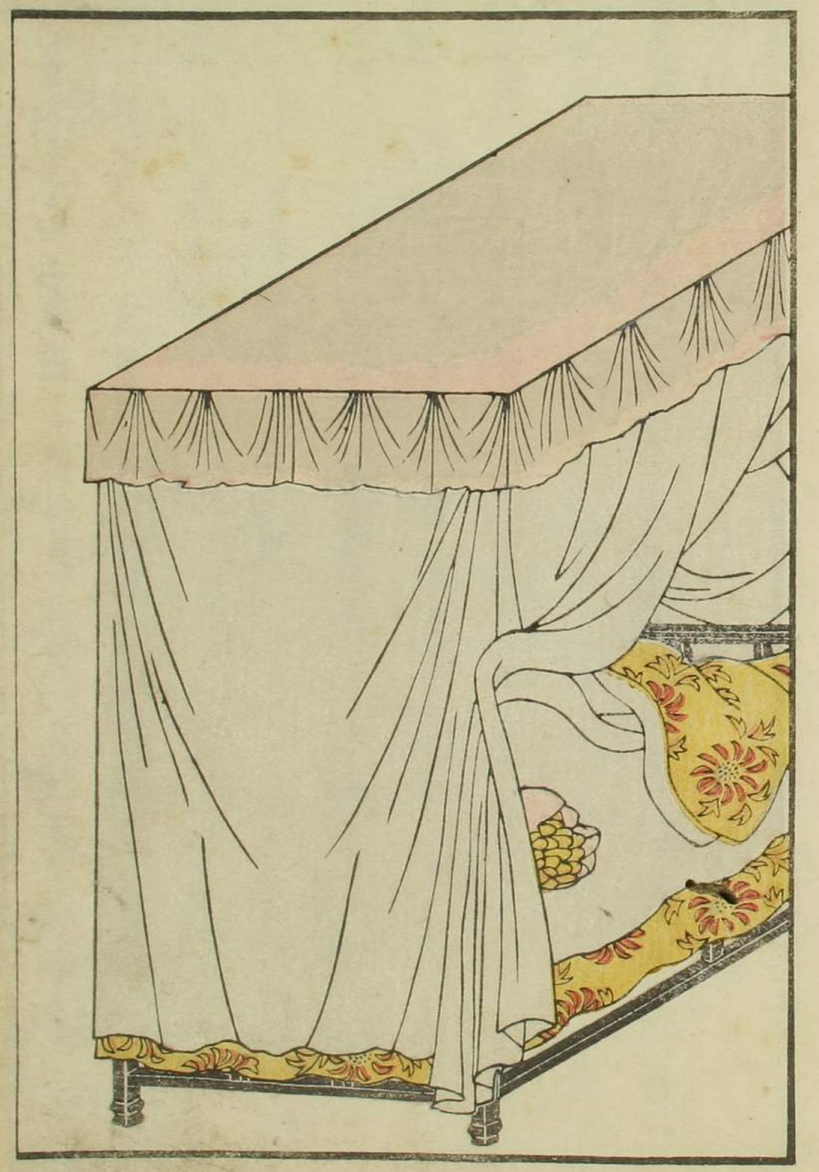
人柔和にして温和にて慈悲深く困窮を憐み患難を救ひ親戚睦まじく礼義正しく貴賤と守り妻子同伴宣敷せば家業を逸楽に酔らば玉極浦の風俗しるべの男子いかにやく起て下人を起し水を引き煙草とのみなどして家の内をあちらこちらと歩行て飯食の出来るを待つ婦人いかに遅く起出て水を引き男子に飯食を

凡人家に入るときは先ボイノジイヤス。コモレバスランなどゝ挨拶

海四ノ三

拶し右の手を出し互に握り合ひたるのち坐りて居るなり左の手を出せば大に怒る嘲ることなり相手に腰掛ける事なしとのむらくさしてかゝる事あり茶白砂糖を入れ飲りて物の時を又アリヨス。アスタロエコなどゝ挨拶してまた握り合ひ別れなりなれ書く別れの時い男女共初の義別れ互に腕下より手を背くまで能く抱きあひて無論とあり むなり

夜を四ツ時を限りて皆門戸堅く閉ぢ一人も徒歩する者なく夜い七ツ時より起出く小業と勤む貴人ド半の人い唯家の内を徒歩して居る



臥床の圖

下ふとくなるハ厚き蒲團なり
拵へもの服飾の部に詳なり
枕ハ花布にて括り枕のもとく拵へ兩方の小口ふ
いろくの花乃形と結ひて作り飾り木綿の
丸き鞘ときせ二つにちぎて枕とす鞘へ汚れべ
時々に拔くて洗ふなり

男女とも四五日目ごとに必ず谷川に行くなり。
て肌と人とを洗ふ。女は形を整へ、ちとはひ
潔なる儀なれども、裸を恥ぢなながらも、
なて肌を洗ふ事なり。獨り下を洗ふ時は、
げ髪ばかりの人のみざるあり。洗ふ所は
早りて乾きたる麻布を腰に巻き、和尚
サンホセホテに時々家をのぞ、客我家ホ
ぶ〜ぶ絡〜肌をみるなり。マサトランてい
大なる笠を持くあり。家内同様なこと
あびしたり

海四ノ四

一

人中山の者は二日毎に衣服を取り
鉄砲を担ぎ山中に獵に出て
獵を取りて人々寄合て酒をのむ。
ぶく張押へ、おのおのの食
して喰ふ。
文字を横文字に書く。西洋と同じ。形アベセラ
八字あり。其文字とくさり續けく
筆い者の羽の莖にて書く。墨い所やん黑き汁の
拭うるもの〜 以前阿蘭陀のインキとうべし 紙は阿蘭陀紙と
同拭うく。 製法詳なる舎密学にあり

のれなるものとたゝ沸してつけそゝこゝ平刺と押く
武蔵と長さ伏砲の出たる鍛の件あると石たゝくのこ
あて弓箭やあひい用ひび鍛いあれば実平ととゝこゝ
指別切りもあり此び丈五鍛鍛と云ものを推し知るる
れ平をなし撥砲の鍛いれこゝ鍛れるやうに大砲を
なく引金出たる燧石を挿して打ち
畠と作るはかしも不浄をかくるしなく出対々
水とくる迫り丈五面を高くあげ明を浄くして
水伏流と仮りうしん作物い甘蔗 小麦 玉黍 高麗
芋 西瓜 南瓜の類又を大蒜 葱 生姜 唐菜のたぐ

ちり不浄い常に狼を出して人とやうひ頂戴さるる
事なり
中此之の者い迫き丈此大家い常に
数十匹の馬と飼ひ置く多勢の者ども一疋二疋ま
こうと打ち出ぬ者いなし鞍い美く白木にて狼の作りを
轡い狼或い猪にて作る猪のこゝさあるて履を
したるなり中へ足と表こゝ出るなり内面の方く
かゝる車の如き物ありて一人を乗らせんと只人付い
泥と踏よせこゝ車にて馬の膳ゝあれいる車に朝
出ひこゝ左歌とゝ用ひこゝ敢日本の歌より多種細先

方ゝ指糸と組く中ゝ志と八重桜の枝に結付て
獸をのく畜ひく形ゝ長くるぐと退散を
来るゝはうゝゝ馬ゝ平くかけ知り退散とゝ小児
五十寸の内より出馬と再びく変をトまる所馬が
側ゝいふゝなれた自然し出ゝとゝ再び変る処
馬は鬣を切捨へ多るゝと日本に同じト雑の名古
もおし走をゝ不へ形ゝ必馬ゝ変る徒ゝて居とある
くし形し女い獸の上て撰句となりて変るゝ
轎を紫檀ゝぐ為てはくるを多くの服めをなし雑の
ゝれものとゝ花ゝは抹額とけ幃と書ゝ有ゝ用ゝ

海四ノ六

腰をかくる布ゝ丈ゝ撰と獸て変る中ゝ作ゝ棒計
ゝ有ゝ肩ゝ載ゝて泉ぐるゝ
婚姻の後ゝ婚ゝ婦ゝと向ひ三ゝ献一献ゝの形ゝ
側ゝ七ゝ手ゝ引ゝ首引ゝ真ゝ両人
の頭ゝかけ男の戒指ゝ女の戒指ゝと一つゝ互ゝ
ゝ（女の戒指と梅枝と隙間のハウ指ゝ皆ゝ結ゝ付ゝ）布ゝ布ゝの多ゝ撰ゝ合ゝ
ゝて媒ゝ乃ゝ去側ゝ両人ゝ向ひ為ゝと戒ゝ沃ゝ
ゝ世ゝ伝ゝ一ゝ不ゝ過ゝて棒ゝ有ゝと八重ゝ桜ゝ枝ゝ
扨ゝ内ゝ結ゝ合ゝ為ゝ合ゝ
初ゝ男女ゝ互ゝ

今の男は右女は左よりそなへる蠟燭と持ち
媒の者盃を張をの盃て持ち夫人のあと之を取て仲間
云中まること所り数の八口時より明け七所之の盃
[illegible]する[illegible]を後ちまて森あて入まで猶ほ[illegible]
之合たる人を集りて高楽をうて酒とのこて祝ひあの
しもの

男女とも一たび婚を結びてくれを生涯ものを変ずるの法し
女を去りて男ともに一生の間に妻婦に虜を獲るべ
[illegible]なく大抵のるい互に恩愛[illegible]丈と妻と
[illegible]妻を丈と[illegible]敬ひ[illegible]

海四ノ七

[illegible]て妻と呼ばなり男を十六歳以上女は十四歳以上と
婚姻の約[illegible]二十歳ホ[illegible]るまで獨所の去い婦なり
[illegible]れた志[illegible]ある去い必ず一年の業を和終ぎ角い
[illegible]て妻と持[illegible]去[illegible]
[illegible]ハ[illegible]なり
丈婦連みく乃と歩行時いろ[illegible]ば妻の右代と丈の
[illegible]の[illegible]引つ[illegible]て歩行なり
医[illegible]を[illegible]羊[illegible]ものらく[illegible]九系[illegible]
又[illegible]病人の脈を[illegible]る時い門[illegible]夜時半と[illegible]

脉の遅速を考る拍子なり腕のかゝりと減を制し無を元とあるを九醫云人の死脉を百中に解り去して人身の五臓を窮めたる者にあらざれば微の医者に非ずと云人痘瘡を多くい天行と伝をうく医者ふべき痘瘡の例ありて初少の内に腕のかゝりの減ちりを減して悪無をさしれば生産痘瘡とをびといえり多くを療治と為りて老ありて天行の痘瘡をまるるをもちて百人い九十六七人迄面に痘瘡の痕ある者いれり　拍子これい初太帝が中遠ひ所ちべし脉不入也痘瘡に心はるるいやもり別痘の例なる拍つくたるまのして尺脉とさして減を血中に鞠まれ数日うして

を痕陥紀して痘と名ち或い外に二ツ三ツ後年ちるの所ちこれ天行の事に感ずんといえり唐土廣東の辺に例ちしかれども久く辺者引痘法云と人を拍来ちりこれを挙傷ずるの例と人伝ちりゆて旦に之を吾の国に伝ちりゆ得て本文代ちく人ふれなるまのちん但天地のる所ちて窮ちれば年く種痘の影例呉るまゆく又いちる所窮理ありて古の若伯の方あるまで式まのちんば是多い鉛ひとちして すちんのこと

寿命い大極六十を三寿ちん二十と紹多るまの婦ちりたて児毒の感長もあるく六七をみるちんい相違對い年ずして例るなしアメリカ例起て始るまたちるぐるこれもカリホルヲのこの夕ちく是ずゞ新宇ふ識ちん北アメリカのタバスコの地ち人多く寿ちちくひるアメリカのブラシレイルの地ち人の寿ち也ちくやくもすれば百年ちしくい百年ちちとしちり

人死る時い雷に打たる者と箱と梅に死骸とを
中に仰向に寝さしを焼さと夜臥を忍せ平生を
ゑ乃ちなどを入れ焼を入れ焼さもりんと
唐ひ山腰に打り来て丈たりも浦く穴と打て平
に垂さ刺のいる事あと巻の下に切り付て上ちと
唐ひ又前と垂く又ちを唐ひかくのこと繁交も
しく待く埋めよと平てえのめくなり下とそそと
いんこともなく焼びを石をかえりうるるこも形し
過去法半などに云こともなり前と垂くこれ犬狼
などの喰くさね落ちうこどもし医者ありくを死

骸と垂ひ富貴の人おくれかしも推ずば医者の奥て
解剖さ切ることを信のつよる人死もれば魂い天に昇を
屍骸いのもとより生ぜしものく又ちうるるれ
めの拒ふしあり為て同じこと成る医者ありとて
解剖をもこも生ば世界の業となりて都て死しる
人の為と聞るこう

海外異聞卷之四終

紀州日高

大和會

海四十